

日々 往来



大山 陽久

鳥取県中部地震から1
カ月半が経過したが、ま
だまだ苦勞している被災
者も多く、お見舞い申し
上げます。

ところで、実は私は本
店時代、地震等の災害発
生に備えてどのような準
備をおこなったか、知
見を集約して、金融機関
に業務継続体制整備を促

選択と集中

す役割にあった。その一
番のポイントは「優先業
務の選定」にあると思っ
ている。地震が発生し、
各種インフラが途絶して
社会が大混乱に陥る中で
は、平時時と異なり、あ
れもこれも同時に行うこ
とほども、思いつくま
まアドホックに対応して
いると、どれもほとんど
進まず、被害が深刻化し
てしまう。何をすべきか
かの優先順位をあらかじめ
決めておき、その実現
に向けて限られた資源を
集中するのが、被害を最
小化することである。

よく考えてみると、私
たちは人生のあらゆる局
面で、常に選択を求めら
れている。時間やお金に
制約がある中、何を優先
させてどう生きるかを
考えるのか、日々の選択結果

が人生模様を形成してい
く。とくに進学や就職、
結婚、住宅購入といった
節目において、自分の価
値観スケールに即して幸
福度を最大化させるよう
な選択ができるかは重要
である。

社会全体をみても、人
口減少の中、既存の公共
インフラを全て維持する
ことはできないし、地方
創生も地域の強みを生か
す形でメリハリをつける
必要がある。

今次地震をきっかけ
に、自分たちにとって一
番大事な物は何かを改め
て認識し、それをしっか
りと守れるよう選択と集
中を進めて「災い転じて
福となす」よう努めてい
くのではないか。

(日本銀行鳥取事務所
長)